

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—33180

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和59年(1984)3月1日

G 11 B 23/08

L 7177—5D

E 05 F 1/12

6867—2E

審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑭ トーションスプリングの取付構造

35号ソニー株式会社内

⑮ 出 願 人 ソニー株式会社

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番

35号

⑯ 代 理 人 弁理士 小松祐治 外 1 名

⑰ 実 願 昭57—126432

⑱ 出 願 昭57(1982)8月20日

⑲ 考 案 者 小沢和男

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番

⑳ 実用新案登録請求の範囲

コイル部とコイル部の一端から延びる作用部とが線バネ材により一体に形成されたトーションスプリングのコイル部を一方の部材に固定し、作用部を他方の部材に係止したトーションスプリングの取付構造であつて、他方の部材には作用部の延びる方向に隔たりかつ作用部の両側に位置するように2本の係止部材が植立され、一方の係止部材の先端には作用部が位置される側と突出した爪が形成されると共に、他方の部材において前記係止部材の爪が突出した側の足下に爪が含まれる大きさの透孔が形成されたことを特徴とするトーションスプリングの取付構造。

図面の簡単な説明

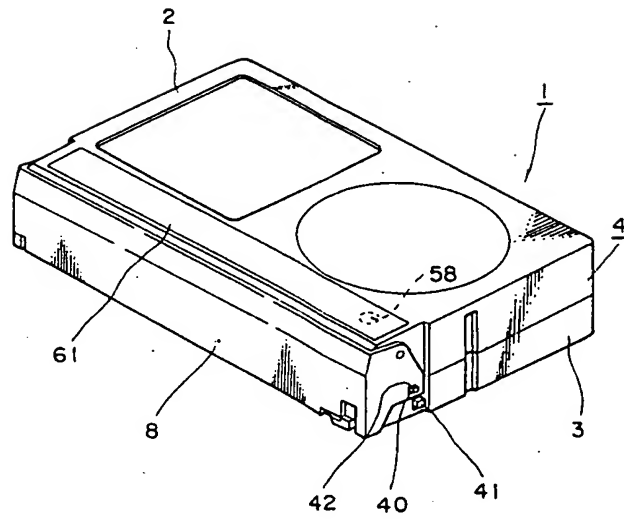
第1図は本考案と比較するためのトーションスプリングの取付構造の要部斜視図、第2図乃至第5図は本考案トーションスプリングの取付構造を

適用したテープカセットの一例を示し、第2図は斜視図、第3図はカバーを開けテープを僅かに引き出した状態を示す一部切欠斜視図、第4図は上ハーフとカバーとを外した状態を示す平面図、第5図はカバーを開けた状態を裏返して見た状態の斜視図、第6図及び第9図は本考案トーションスプリングの取付構造の実施の一例を示し、第6図は斜視図、第7図は要部の拡大斜視図で、Aは分解した状態を、Bは結合した状態を示し、第8図は2本のピンの位置関係を示す正面図、第9図は成形型と爪を有するピンとの関係を示す断面図である。

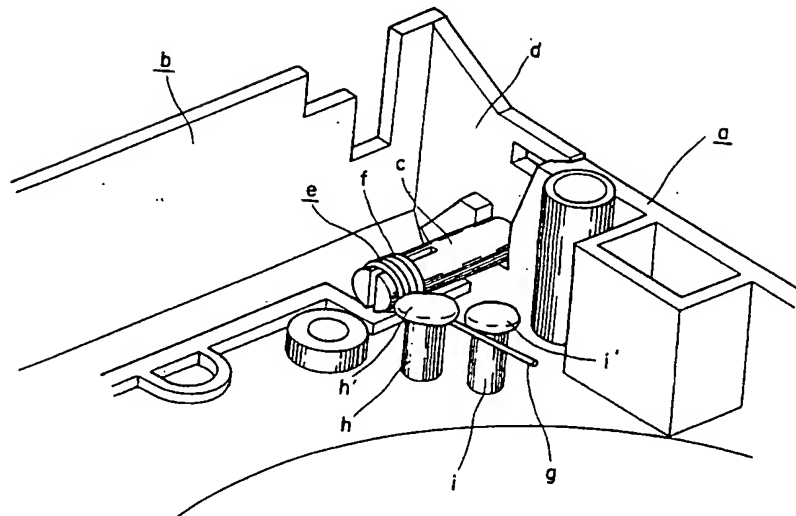
符号の説明、2……他方の部材、8……一方の部材、51……トーションスプリング、52……コイル部、53……作用部、55……ピン、56……ピン、57……爪、58……透孔。

実開 昭59-33180(2)

第2図

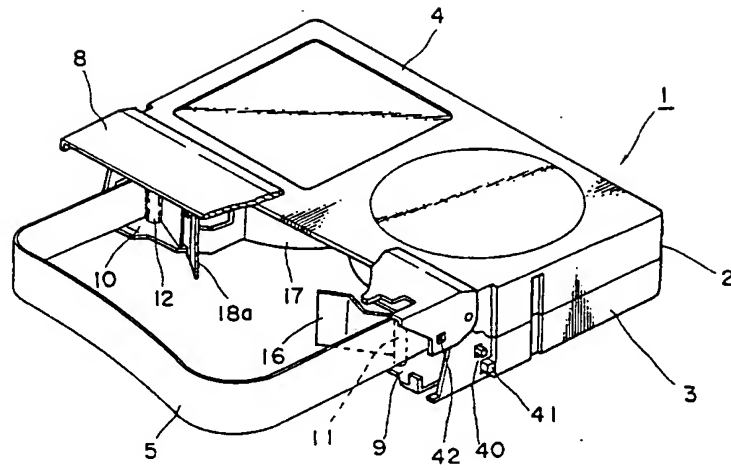


第1図

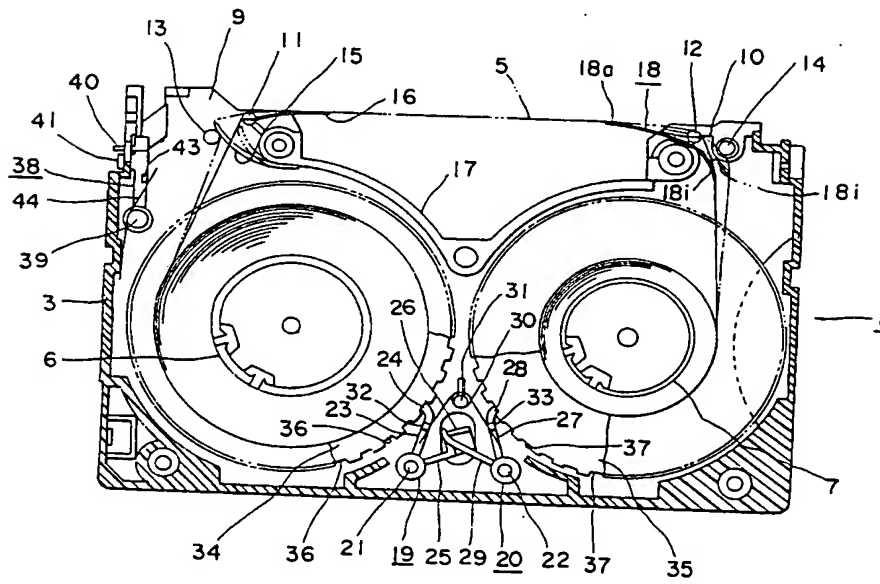


実開 昭59-33180(3)

第3図

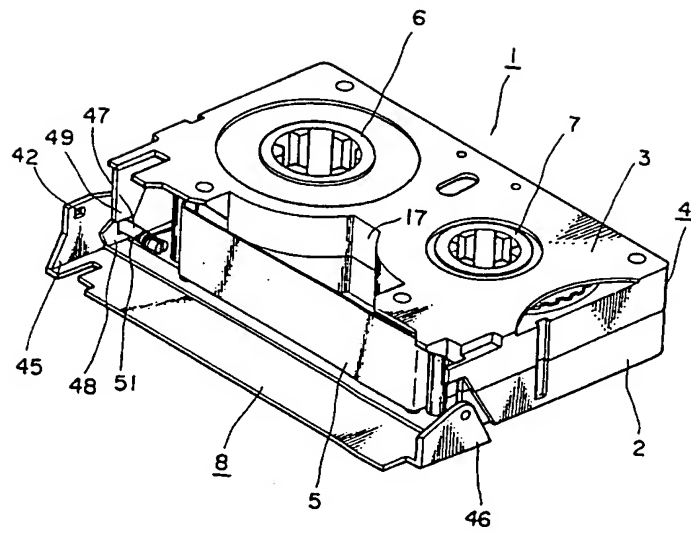


第4図

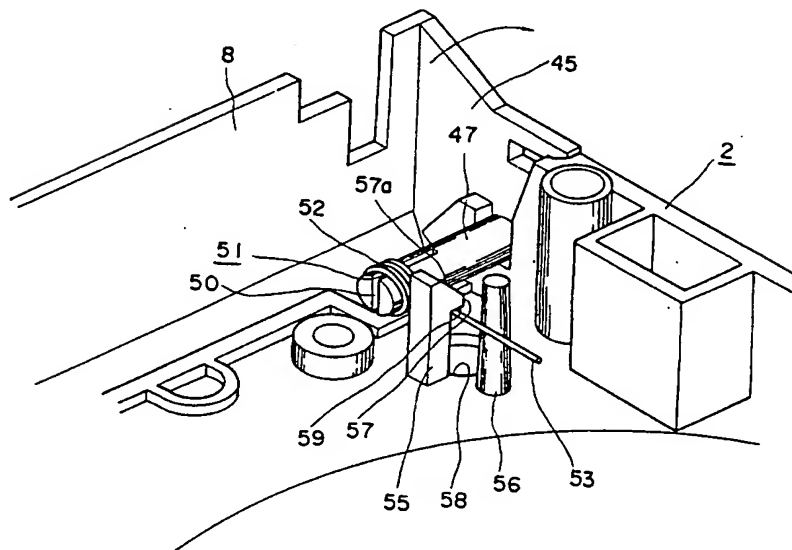


実開 昭59-33180(4)

第5図

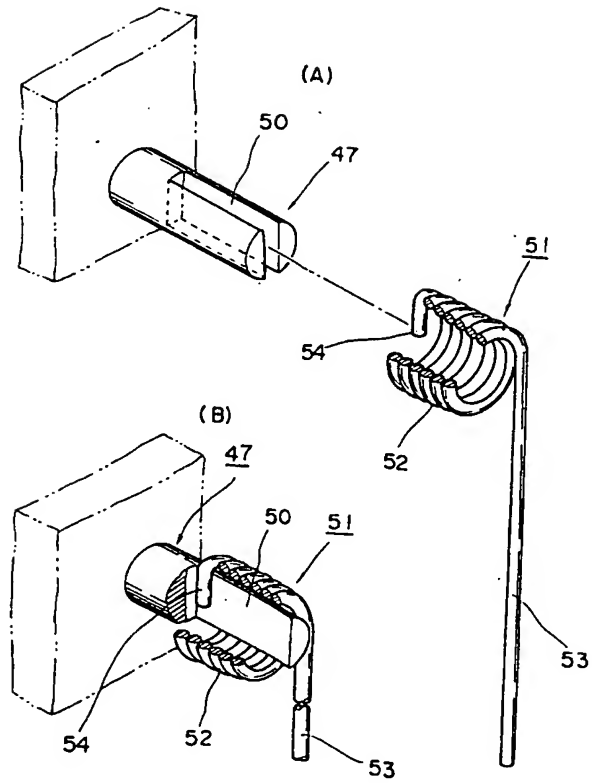


第6図

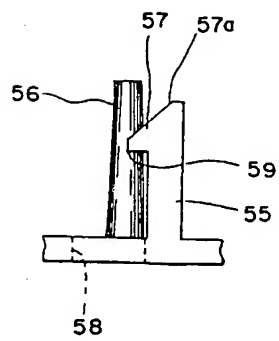


実開 昭59-33180(5)

第7図



第8図



第9図

